会津大学
後援会だより

第46号
発　行：会津大学後援会(事務局 学生課)
発行日：2021年8月1日
住　所：〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀
電　話：0242-37-2515
ＵＲＬ：https://www.u-aizu.ac.jp/

学長あいさつ
「居場所創り」の危機に思う

会津大学長　宮崎 敏明

会津大学は開学以来、コンピュータと英語学習において、国内随一といえる環境を学生に提供してきた。しかし、環境をどんなに整えても、本人のやる気、向上心を引き出すのは難しい。そのことを、先日、本学の語学研究センター長Wilson教授が、ある会合で、本学学生の英語力強化に関して問われ、イギリスのことわざ「馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない。」を引用し言及された。現在、国内に大学は790校ほどあり、その内の約３割は定員割れの状況である。大学を選ばなければ、誰でもが大学に入学できる全入時代となった。そのような状況下で、本学に入学してくる学生全員が、初めからコンピュータや情報通信技術（ICT）の専門家を目指そうと思っていないであろうことは想像に難くない。しかし、過去多くの若者が、ICTに関する一定の見識とスキル持って本学から巣立ち、社会で活躍しているのも事実である。

直近３年間の本学学生の卒業時の成績（GPA）と１年生終了時のGPAに、強い相関が認められた。一方、入試の成績との強い相関は認められなかった。これは、卒業時の成績は、入試の成績ではなく、１年時の過ごし方にかかっていることを示唆している。同様の傾向は、他大学でも報告されている。成績に限って言えば、入学直後に、大学で学ぶことに何らかの意味を見出し、やる気や向上心が芽生えた学生は、その後、順当に伸びるということである。大学が教育機関として、学生に提供できることは、学部教育における体系だった専門基礎教育と、大学院を中心とした最先端技術に触れる場である。しかし、それにも増して、大学に必要なのは、学生一人一人に「居心地の良い居場所」を提供することだと思う。すなわち、学生にとって大学とは、尊敬できる教員や先輩、一生の友となる仲間、企業・自治体・市民との出会いが叶う「居場所」であるべきと思うのである。それができる大学からは、偏差値や既成概念に囚われない人材が育ち、世の中に変革をもたらす技術が生まれるのだと思う。

いま、新型コロナの影響で、学生たちが大学に来ることを制限するケースがある。大学として、遠隔講義を初め、充分な教育環境を提供する努力は日々行ってきているが、学生たちにとって、人との出会いが制限され「居場所創り」が困難になっているのも事実である。全教職員一丸となって、学生一人一人のケアに今まで以上に注力して行かねばならないと強く思っている。

会長あいさつ

会津大学後援会会長
高宮　誠

会津大学後援会会員の皆様におかれましては、日頃より本会の運営にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

また、新たにご入学されました新入生ならびに保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

会津大学は、日本初のコンピュータ専門大学として1993年（平成５年）に開設されました。話は遡り、白虎隊の学び舎「會津藩校 日新館」は、幕末会津藩の教育の重要な役割を担った教育機関でした。戊辰戦争によりその教育手段を失いましたが、もともと教育意識の高かった会津の人たちは高等教育機関の設置を求めて運動し、四年制大学の設立という形で長年の悲願を叶えることができたという経緯があります。

本大学は、ユニークなカリキュラムと教育方針で全国から学生を集め、近年では国内外の大学ランキングで高い評価を受けるようになり、日本有数レベルのコンピュータ単科大学として発展し続けています。

今年度の後援会事業計画につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大きな制約を受けることが予測されますが、会員の皆様には、後援会活動へのより一層のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、本大学が立地するこの会津の地では、地域の方々から学生と大学が温かく見守られています。こうした恵まれた環境の中で、後援会会則の目的である大学における教育の拡充発展、学生の教養向上及び福利厚生等の援助を図るために後援会が大学と連携し、学生たちがそれぞれの夢の実現に向けて充実した学生生活の一助となることを願いまして、私の挨拶とさせていただきます。

学位記授与式（2020年度）

2021年３月19日（金）、学位記授与式が執り行われました。コンピュータ理工学部卒業生210名、大学院博士前期課程修了生48名、大学院博士後期課程修了生５名、計263名を代表して、学部卒業生の松尾祐飛さんが答辞を述べました。

また、在学中に優秀な成績や研究の成果を修めた学生の表彰が行われました。

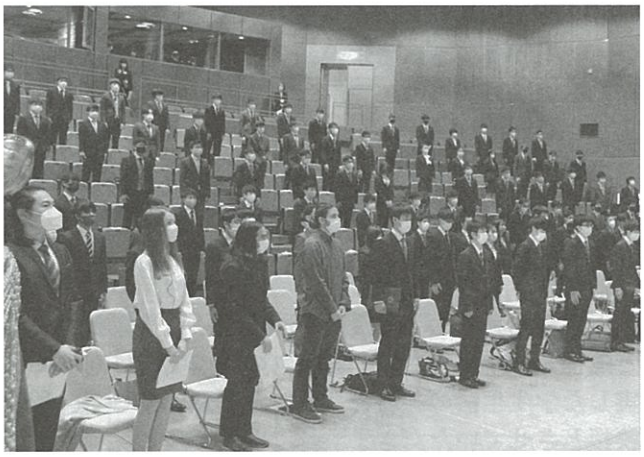
学長賞	松尾 祐飛（学部） 大竹　樹（博士前期課程）
優秀賞	村木 匡弥（学部） 本間 祐樹（学部） 寺田 拳汰（博士前期課程）
公益財団法人会津地域教育・学術振興財団表彰	橋本 志穂実（学部） ミハイロア ヴェロニカ（博士前期課程）
電子情報通信学会東北支部表彰	木村 快晴（学部）
情報処理学会東北支部学生奨励賞	橋本 涼平（学部）
電気学会東北支部優秀学生賞	山谷 侑平（学部）

2019年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催し、保護者の皆さまにはご同席いただくことがかないませんでした。このような中でしたが、学生の皆さんは晴れやかな巣立ちの日を迎えました。

入学式について（2021年度）

2021年４月２日（金）、会津大学講堂にて2021年度入学式が開催され、学部入学生250名、博士前期課程57名、博士後期課程９名、合計316名が入学しました。

入学者及びご家族の皆様におかれましては、新しい門出となる入学式を楽しみにされていたことと思いますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、皆さまの健康と安全の確保を最優先とする措置として、「入学生のみの参加」「入学生を半数にし、式典を2回に分ける」とし、感染症対策を行った上での開催となりました。



新型コロナウイルス感染症対策のため、
マスクを着用し、座席同士の間隔を確保

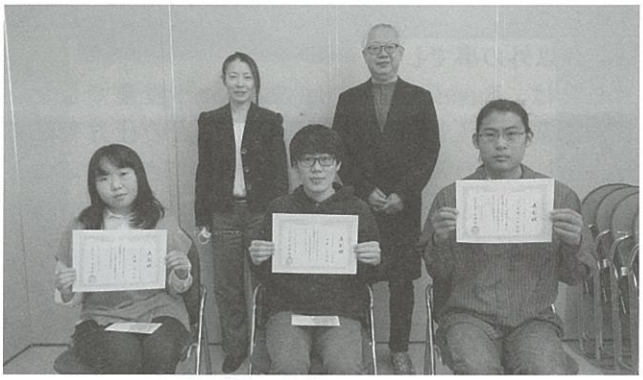
苗字の頭文字によって2グループに分け、
グループごとに整然と会場に移動中

在学生表彰（成績優秀者）

2020年度の各学年の成績優秀者を表彰しました。会津大学では、GPA（＊）による成績評価を導入し、学部の各学年の上位３名を表彰しています。（＊Grade Point Average：大学における成績評価方法の国際標準であり、就職や大学院進学、海外留学の際に活用されています。）

学年（2020年度）	成績優秀者		
学部１年	伊集光世	加藤由芽	石井大智
学部２年	星野結水	村上幸新	酒井乃輝
学部３年	伊藤亮哉	村上弥夢	須藤絢子

2021年３月30日（火）：宮崎学長より、表彰状と副賞（図書カード）を贈呈。後列左端は金子学生部長。同右端は大津山学生副部長。



表彰式当日に欠席となった表彰者には後日、金子学生部長（中央）より、表彰状と副賞を贈呈。

大学での取り組みの紹介

本学の「女性ICT人材育成事業の実施を通じた女性活躍応援の取り組み」が高く評価され、公益社団法人日本工学教育協会第25回（2020年度）工学教育賞（※１）を受賞しました。

会津大学復興支援センター（※２）では、社会人女性のためのIT（情報技術）教育講座として「女性プログラマ育成塾」（2017年～2019年）、「女性のためのITキャリアアップ塾」（2020年～）を開催してきました。

本講座では、現在無職の女性や非正規雇用として働く女性、出産や育児等による退職からの再就職を目指す女性を対象にリカレント教育を行い、学習修了後は、県内企業への就職や起業・在宅ワークへの就業等、各人のライフステージに合わせつつも付加価値の高いデジタル業務への就労を支援しています。

また、本講座はITをフルに活用して実施しているため、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の中においても実施に大きな影響は無く、ニューノーマル時代を見据えた地域活性化・女性活躍の人材育成モデルとなり得るものです。

表彰式は、2021年９月８日（水）に信州大学長野（工学）キャンパスとオンラインにて開催される予定です。

※１　工学教育賞とは、日本の工学教育並びに技術者教育等に対する先導的、革新的な試みによって、その発展に多大な影響と貢献を与えた個人・団体の業績を表彰するものです。

※２　復興支援センターは、本学がICT専門大学である特徴を活かし、東日本大震災等から福島県の確かな復興に貢献することを目指し2013年に設立されました。

留学準備のための英語体験プログラム 研修報告

新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度の短期・中期留学プログラムは中止となりましたが、異文化理解や国際化に対する学生のモチベーションを高め、語学力向上を目的として、この代替プログラムを実施しました。福島県天栄村に位置するブリティッシュヒルズは、「パスポートのいらない英国留学」をキャッチコピーとし、英国文化を学び、英語漬けの共同生活が体験できる施設です。このプログラムに参加した学生の研修報告を紹介致します。

研修先・期間：ブリティッシュヒルズ（福島県岩瀬郡天栄村）/2021年2月22日(月)～2月27日(土)

笹原　皓太さん（学部２年）

このプログラムに参加する前、ここで学べることは、英語の日常的な話し方だけだと思っていました。しかしプログラムが終わった今、学んでよかったことはそれ以外の事でした。

それは、Business Experienceという授業でした。この授業を通して私は、英語での発表の仕方や伝え方、そして他の人と協力することの大切さを学ぶことができました。授業ではいくつかグループを作り、グループ内で世の中にない商品を考案して英語でプレゼンをしました。数日の準備期間を経て発表するので、私は研修中に培った日常英会話を駆使しながら、グループメンバーと相談して発表に臨みました。

プレゼンの様子

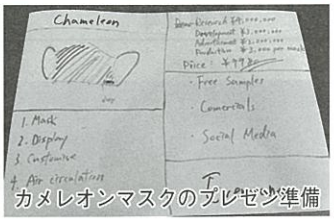
発表はプレゼン形式でやるので、質疑応答もありました。事前にどのような質問が来るかメンバーと相談していたので、自信をもって答えようとしましたが、いざ本番になると私は頭が真っ白になってしまい、戸惑って話せなくなることがありました。しかし他の仲間が質問に答え、その場を乗り切ることができました。もちろん英語で流暢に話せることは大事ですが、失敗したときは一人で抱え込まず協力することがとても大事だと、改めて知ることができました。またプレゼンの内容を考える際、私は説明文の制作を担当したのですが、どのような英語を使えば相手に伝わりやすいかを考えることで、大学生活でたくさんあるプレゼンの練習として良い機会になったと思っています。

Pub Quiz：クイズで楽しく英語を学ぶ

このプログラムを通して、自分の英語の対話力や表現力に自信がつきました。今後も似たようなプログラムがあった際には、積極的に参加したいと思います。

千葉　泰誠さん（学部２年）

私は新型コロナウイルスの影響で留学に行けず代わりに何かに挑戦したいという思いで、プログラムへの参加を決め、その結果たくさんの良い経験をすることができました。ブリティッシュヒルズに行く前は、授業や現地での生活について行けるか心配でしたが、参加したメンバーや現地の先生方がとても優しく面白かったため、楽しく過ごすことが出来ました。



カメレオンマスクのプレゼン準備

最も心に残った授業は、Business Experienceという授業です。この授業では、グループに別れて１つの商品のアイデアを出し、その商品を投資家と言われる人達にプレゼンをするものです。私たちのグループでは、カメレオンというマスクを考えました。これは、マスクがディスプレイになっており、自分の好みの模様に何度でも変えることができるというものです。この授業では、プレゼンテーションでの話し方を学ぶことが出来ました。同じような表現になってしまうところは違う表現にしたり、あえて一呼吸おいて喋ってみたりすることで、印象に残る発表が出来るということを学びました。

授業風景

この授業の他にも様々なアクティビティを通して、楽しく英語を学ぶことができました。私にとってこのプログラムの参加は、１つの挑戦でした。挑戦することで新しい体験ができ、毎日が新鮮で楽しかったです。留学に興味がある学生や何かに挑戦してみたい学生は、第一歩としてブリティッシュヒルズでのプログラムに参加して欲しいと思います。

クロスカントリースキー

2021年度も新型コロナウイルス感染予防対策として海外渡航ができないため、また、このプログラムが学生にとって大変効果的だったため、「留学準備のための英語体験プログラム」を２回、下記の日程で実施する予定です。

夏季：2021年９月25日(土)～９月28日(火)／冬季：2022年2月14日(月)～２月19日(土)

＊このプログラムに参加した学生や留学経験者のレポートは、下記のウェブサイトでご覧頂けます。

https://www.u-aizu.ac.jp/osip/dispatch/report/

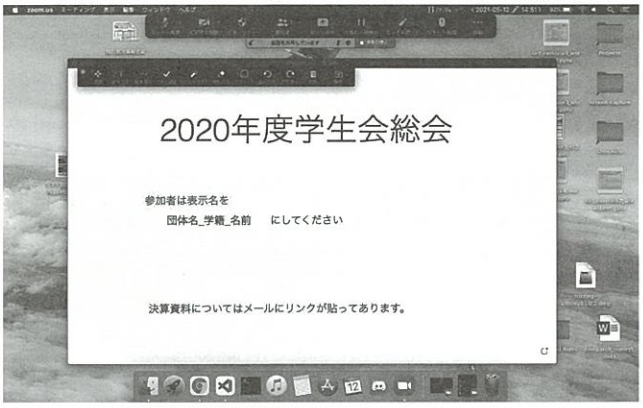
学生会の紹介

こんにちは、学生会執行部です。
私たちは学生会員がより良い生活を送ることができるよう、日々活動しています。

2020年度の主な活動

◎学生会総会の運営

学生会総会とは学生会の意思決定に対する最高機関であり、学生の学生生活における決め事を審議、決定する場です。主に予算や決算、会則などについて審議します。また、学生会員の意見を取り入れる場としても開催されます。私たち執行部は学生会総会の開催、告知、運営を行っており、それぞれ４月に昨年度の決算総会、５月に今年度の予算総会が行われます。



決算総会の様子

◎設備編成

昨年度は新型コロナウィルスの感染拡大防止の観点から各サークルによるサークル活動もオンラインよる活動や厳しい制限下での一部対面による活動としてきました。そのような状況で、前述した学生会総会においてネット環境を整えてオンラインの活動をしやすくしてほしいとの要請があり、現在、執行部として学生の意見を反映できるよう、外部の企業様に協力していただき、ネット環境の整備に尽力しています。

学園祭実行委員会の紹介

こんにちは！学園祭実行委員会です！
私たち